

# ニューズレター三千里

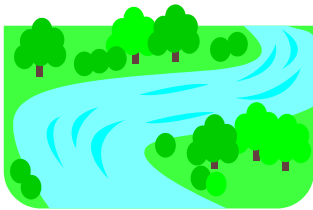
ニューズレター三千里 Vol.09 2006年5月号



## 6.15共同宣言 6周年を迎えて 三千里鐵道 理事長 都相太

### 北帰行 - 具体化こそが在日の役割

緑でつなごう三千里錦繡江山



ソウルから約1時間、イムジンガンにかかる統一大橋で検問を受けたバスは、板門店を北にして左折する。



南側の出入国管理事務所を経て非武装地帯に入る。4月後半だと言うのに、非武装地帯の雑木林、新緑にはまだ早い。4車線の高速道路は、まっすぐに開城に向かっている。途中、鉄道京義線が高速道路を横断し、平行しながら寄り添う。真っ赤にさびた蒸気機関車一台、北に向いたまま横たわっている。

掘っ立て小屋にちかい北側出入国管理事務所は、官僚的ではあるが同胞のぬくもり。南北出入国管理事務所間が4キロの非武装地帯のようだ。

開城工業団地の造成工事が間断なく進行しているようだ。大型ダンプが砂塵を巻き上げて行き来する。

北側管理事務所から数百メートル先には、開業したばかりの工場群。

その工業団地をぬけると開城市街地。3年半前に訪れた北側鉄道分断点には鉄路ががちりと連結されていた。その付近、幾重にも軌道が敷かれた操車場が建設されていた。

開城での植樹行事は形だけのもので、少々失望したが、目的は北の大地の緑化である。三千里鐵道から贈呈された苗木が場所を得て、すくすくと育つことを願うばかりである。



NPO三千里鐵道は統一と平和と和合を具体化する運動体である。

鉄道京義線の連結のための募金活動をはじめとし、今回の植樹、また9月に予定している呉炳学画伯の個展など。

在日は、今こそ平和と統一のために、日本の友人と手を携えて、一本ずつ苗木を植えよう。

統一への一里塚を、楽しみながら進めよう。

## 開城 - 南北協商統一の最前線を訪ねて

～ 北域苗木支援及び南北共同植樹事業に参加して～

三千里鐵道事務局長 韓基徳



2006年4月21日、この日は、私にとって永遠に忘れられない日となった。  
6年前の6.15共同宣言以来、三千里鐵道の活動を通じて、少しでも分断祖国の平和定着と交流拡大、将来の統一の為に寄与したいと思ってきたが、南域ソウルからバスに乗って陸路で北域の地を往復する日が、このように劇的に訪れることになるとは、夢にも思っていなかった。

この日、南側民族和解協力汎国民協議会(民和協=韓国最大の南北民間交流団体)は、北側民和協の要請を受けて、開城(ケソン)市において「苗木支援及び南北共同植樹事業」を行ったが、南側民和協の要請を受けた三千里鐵道も、都相太理事長以下3名が参加したのである。

約130名の参加者はバス3台に分乗し、陸路『軍事境界線』を越えて開城入りした。

7時40分に光化門を出発したバスの中で、本来であれば統一部において受けなければならないという『訪北教育』を受けた。主な点は1.南北の呼称については『南域、北域』とする。2.北側住民の生活様式や文化的慣習を尊重する。3.行事の円満な進行のために民和協職員の指示に従う、という事であった。

以前は、反共反北教育の地として知られた都羅山に設置された『京義線道路南北出入事務所』において『出境』の手続きをした。ここでは、旅券ではなく、あらかじめ統一部に申請して発給された『訪問証明書』(下記画像)が用いられた。

再度バスに乗り、復元連結された鉄道京義線を右手に見ながら、非武装地帯に入り軍事境界線を越えた時は、いよいよ北の地に入ったという静かな緊張感に包まれた。「ワックナ……(本当に来たんだな～)」

そして、長端駅があったところに永久保存されている、6.25動乱時に破壊された機関車の残骸を見た。そして、その付近から、北側の山野の風景が一変したのである。「木が無い……」それは余りにも明らかな相違であった。

北側入境手続は、軍の担当であった。いかにも仮に建てられたというプレハブの建物の中で、手荷物検査を行うのだが、軍服のいかめしさに関わらず、和やかな雰囲気であった。この管理所において、すでに数多くの南側の人々と出会ったことで、互いに同胞の情が育っているのであろう。私は、映画『JSA』の一場面を思い起こした。



管理所の前方には『開城工業地区(開城工団)』の敷地が広がっていた。南北を繋ぐ道路は、開城工団造成のためのダンプ、工団内で使われる資材、生活用品、工団で製造された製品の輸送する為のトラック、そしてバスや乗用車などが列をなしていた。

再びバスに乗り込み、開城工団の工場群を横に見ながら、開城市内に向かった。道中の車窓からは、最近苗木が植えられた場所を所々見ることが出来た。

初めて見た開城市の印象は、一口で表現するならば、「ねずみ色の世界」であった。『祖国は、選ぶことが出来ないではないか……』という私の口癖が、胸のうちに行き来した。人々は、私たちのバスには、無関心であった。あるいは、無関心をよそおっていたのか……。手を振ってくれる人は、ほとんどいなかった。正直、さみしい……。

「私たちは今統一中なのです。長い間分断していたのですから、互いのことをいっぱい勉強しなくちゃならないんです。辛抱しなくちゃいけないんです。」

五年前の三千里鐵道主催の『6.15共同宣言一周年祝祭』の時、朴容吉女史(故文益煥牧師夫人)が言った言葉が思い起こされる。

私たちが記念植樹した場所は、開城第一のホテルである子南(チャナム)山旅館近くの名勝、善竹橋(ソンジュッキョ)周辺であった。当初想像していた『はげ山』で北域同胞と共にというのは、夢に終わった。

子南山旅館での午餐は、北式のキムチをはじめとても美味しいものであったが、その費用は全部南側が負担したとのことを後に知った。



昼食後、儒教の本拠地であった成均館の跡地を利用した高麗博物館を見学した。古い建物と庭園が美しく保存されていたが、とりわけ樹齢1000年を越えるというけやきやイチョウの大木に出会い、朝鮮の長い歴史に触れたような気がした。

その後、開城工団見学に向かった。

北側労働者7000人弱と南側労働者500人以上が既に働いている工団の内、見学した『Shin Won』という縫製工場では、約300人の北側労働者が働いていた。

ざわざわと工場内に入った私たちに対して、工場側責任者は、「ここは北側の労働者が共に働いている職場です。皆さんは観光に来たわけではないでしょ。」と一喝した。そこに、開城工団の歴史的使命を背負った人々の使命感を強く感じ、反省しきりであった。工場の労働環境は素晴らしく、2階には従業員食堂やシャワー室、卓球場などの福利厚生施設があるとのことであった。

Shin Wonでは、会社の製品全生産量の5%がこの工場生産されているとのことであった。開城工団の優位性については、北域の労働者が勤勉で能力や労働意欲が高いこと、意思疎通に問題が無いこと、原料の搬入及び生産物の搬出が、地続きで容易であることなどを挙げた。

実際に、北側の労働者が働く姿を見ながら、彼女たちが初めて、労働の何たるかを体験しているのではないかと実感した。開城市内では、何をするでもなくぶらぶらしている人々を大勢見た。その中には大勢の軍人も混じっていた。とにかく、北には、働くところがない。

『計画経済』は自立的な生産の余地をなくし、『指導』による労働は、言い換えれば、生産性向上や市場価値を狙った自立的な創意工夫の喜びを奪った。



- ケソン工団への通勤バス -



- ケソン工団から見える「ハゲ山」 -

工団内には、ウリ銀行の支店があり、日本でも馴染みのコンビニ、ファミリーマートが営業をしていた。開城工団を最後に、帰途についた。

私の北側の出境審査は、楽しいものであった。管理官が、私が善竹橋で買った沢山のみやげ物を見て、「沢山買いましたね。」と微笑んだ。私が「愛国者でしょ。」と答えると、「だけど、安いものばかりじゃないか。」と返してきた。そのような冗談を交えた会話が出来たのがうれしかった。

しかし、出境審査は入境審査に比べて厳しいものがあった。

デジタルカメラは、その場で撮影画像がチェックされた。トラックは、荷台から運転席に至るまで厳しくチェックされていた。私たちが出境審査を終えて出発するまで約1時間かかったことだろう。

そして再びバスに乗り、軍事境界線を越え、南側の入境審査をすませ、光化門に戻ったのは、午後7時であった。

なお、これに先立ち19日、三千里鐵道は、南側民和協を訪問し、苗木支援基金として1千万ウォンを、丁世絃常任議長に伝達した。くしくも、2002年3月に三千里鐵道が京義線鐵道建設資金を伝達した時の統一部長官その人であった。



【詳細日程】

- 07:40 光化門出発
- 09:30 都羅山CIQ 到着
- 10:00 MDL 通過
- 10:30 北側入境手続き
- 11:00 植樹行事
- 11:30 ソンジュッキョ観覧
- 12:00 昼食(チャナム山旅館)
- 13:00 高麗博物館見学
- 14:00 開城工団見学
- 14:30 北側出境手続き
- 16:00 MDL 通過
- 17:00 都羅山CIQ 出発
- 18:50 光化門到着

【詳細支援内容】

- 1)苗木 五葉松 10万本  
松 5万本  
けやき 3万本
- 2)関連物品(肥料及び植栽器具)



写真左: 社団法人 韓国養苗協会  
安昇煥 副会長  
今回、北側に支援された苗木を提供されました。

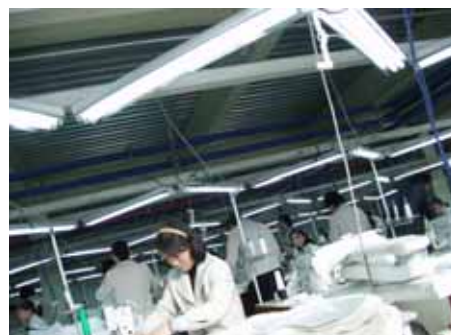


ソウル ケソン

毎日ソウルから労働者を乗せて、ケソン工業団地に向かうバスです。



- 南北出入事務所 -



ケソン工団内のShin Wonという縫製会社の工場内。

多くの女性達がミシンを黙々と踏んでいた。



韓国インターネット新聞 オーマイニュースもご覧になって下さい!  
[http://www.ohmynews.com/articleview/article\\_view.asp?at\\_code=326198](http://www.ohmynews.com/articleview/article_view.asp?at_code=326198)

## 最近の民団動向



民団中央本部は、今年2月定期中央大会を開催し、「改革民団」を標榜する河丙鈺氏を団長に選出した。前執行部が押した候補は落選した。議長、監察委員長選挙でも同様の結果であった。

後日発表された人事案件によれば、副団長は5名。金君夫氏、金淳次氏が含まれている。また、常勤として企画調整室長兼事務副総長に姜英之氏が就任した。三氏ともかつて韓民統中央本部に常勤として在籍していたことは周知のことである。民団新聞も主筆、編集陣が一新された。

河団長は、民団改革のひとつとして、朝鮮総聯やその他の在日団体との和解を推進すると強調し、さらに祖国統一運動の一環として6.15共同宣言実践日本地域委員会に参加するとし、前執行部の方針と際立った相違を見せている。

それを受けて、韓統連中央本部は4月21日、民団中央本部を訪問し、1.過去の在日韓国青年同盟の傘下団体取り消し処分、郭東儀先生に対する除名処分、韓民統等に対する敵性団体規定、各々撤回要求。2.今後の協力関係の造成。3.本国政府に対する自主性堅持。等の内容の提議書を伝達した。民団中央本部は受理し、前向きに検討することを言明した。

また民団中央本部は4月24日6.15共同宣言実践日本地域委員会共同事務局事務所を訪問し、6.15共同宣言実践民族共同行事に参加する提議書を伝達した。同共同事務局は前向きに検討することを言明した。

民団中央本部のこの間の変化は、在日同胞社会にもやっと、6.15時代が到来することを予感させる。三千里鐵道として歓迎したい。

### 開城工業地区開発計画 概要

位置：開城市及び板門郡一帯(平壤から 160km、ソウルから 60km、非武装地帯北方境界線から1.5kmに位置)

総面積：総 2,000万坪 (65.7k m<sup>2</sup>)

公団 800万坪 / 背後都市 1,200万坪

段階別開発計画：

- 1段階 (100万坪)：労働集約的中小企業工団造成
- 2段階 (300万坪)：世界的な輸出基地構築  
(首都圏と連携された産業団地として開発)
- 3段階 (400万坪)：重化学工業と先端産業設備分野の  
複合工業団地

2、3段階工団及び背後都市面積の具体的な内容は北側と協議中

1段階 100万坪開発事業が 2007年完了目標で進行

- 事業期間：2003年～2007年
- 建設費用：2,205億ウォン(基盤施設：1,095億ウォン)
- 施行者：韓国土地工事(資金、設計、分譲)  
(株)現代牙山(施工)

### 開城工団は統一への一里塚

現在は、まだ試験運用期間であるが、既に北側労働者が約7千人雇用されている。第1段階が完工し本格操業が始まると、約7万人の労働者が雇用されるといふ、民官共同の壮大な計画である。

現在「北域で販売される消費財の80%が中国製品」といわれるほど、北域経済は中国依存度を高めているが、開城工団で生産された国内製品が北域同胞の手にわたり、生活向上に役立つことになると期待される。

さらに、最近では工団周辺における農業生産も検討され始めている。開城工団は、6.15共同宣言がもたらした『協商統一』の理念の最前線に位置し、統一への一里塚といえるであろう。



呉炳学画伯は日本の植民地支配下の1924年、平安南道平城で生まれた。1942年、絵の勉強のため東京へ。解放直後、東京美術学校(現、東京芸大)に入学したが、「期待したほどではなかった」と2年程で中退。独学でセザンヌ、ゴッホ、ピカソなどの画集から学びながら、独特な画風を確立。「6.15共同宣言によって統一はわれわれの目前にある。引き裂かれた民族を一つにつなぐ芸術の力をみせていきたい」と夢をふくらます。

## 呉炳学画伯ソウル個展開催！

三千里鐵道 夢切符に絵画を提供してくれました、呉炳学画伯(平城出身)が南の地ソウルにて、個展を開催することが決定されました！

日 時:2006年9月6～19日(予定)  
場 所:ソウル仁寺洞  
画廊『学古齋』  
主 催:NPO法人 三千里鐵道



北側での個展開催も予定されております。南北等距離での個展開催を三千里鐵道も応援します！

今回の個展開催は、人権派弁護士として名高い、韓勝憲弁護士の尽力により実現されました。(M)v

### 寄付金をお願い

個展開催に伴い、皆様からの寄付金をお願いいたします。寄付金は個展開催運営費のみに、つかわせて頂きます。皆様の温かいご支援をお願いいたします。(1口:1,000円)



## 山林緑化事業に参加して下さい！

### 寄付金をお願い

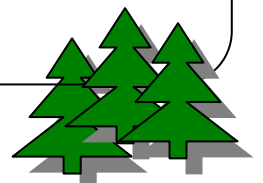
来年度も継続事業として、山林緑化事業に参加します。日本から北へ緑の苗木を送りましょう！  
皆様の温かいご支援をお願いします！  
(1口:1,000円  
苗木10株分)

今回の苗木支援事業は前述の報告の通り、南側の民和協の要請のもと三千里鐵道として支援を実施しましたが、今後は在日同胞と日本の友人が、北側および南側の民和協と交渉をしながら、日本から北側の山林緑化事業に参加できればと願っています。

また、来年度からは在日同胞の若者が実際に現地を訪問し、苗木植樹に直接携われるように、計画していきます！

今回のケソンから見える山々は簡単に言えば「ハゲ山」でした。おそらく燃料として木々を伐採したものと思われる。そうなった理由を論じるのも大切かも知れませんが、現状の山々には緑がないのも現実です。

苗木が生長するには人間が成長するのと同じように時間がかかります。ですが、今の子供たちや生まれてくる新しい命のためにも私たちができることを実践していくことが、平和統一を願う者の役割であると思いますが、皆さんはいかがお考えでしょうか？





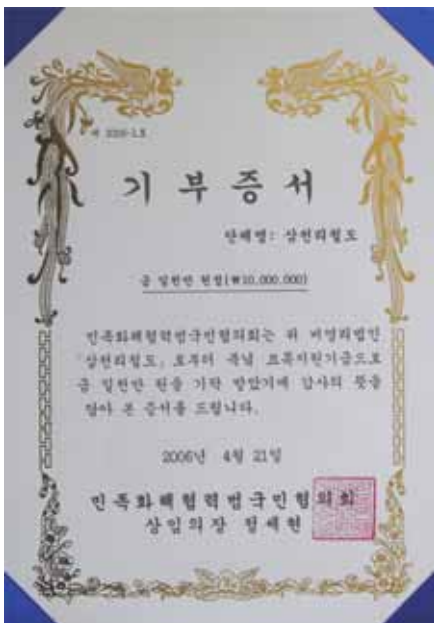
私たちが宿所にしたソウルゲストハウスで飼われていた、天然記念物368号指定のサブサル犬のサリです。

日帝時代に、『満州』関東軍の防寒用毛皮用として繁殖が奨励され、100万頭以上が屠殺され、絶滅したと考えられていた犬です。

60年代から「韓国サブサル犬保存会」による復元事業が開始され、現在、復元率は約90%とのこと。

春香伝にも登場するサブサル犬は、「鬼追い犬」、辟邪(へきじゃ: 訳注: 魔除けの神獣のこと)でありと信じられ、狛犬のモデルになったといわれています。

今、四匹が守備隊と共に独島を守っています。

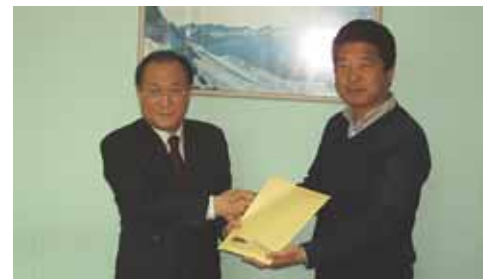


**寄付証書**

団体名: 三千里鐵道  
金: 10,000,000 won

民族和解協力汎国民協議会は、上の非営利法人三千里鐵道から、北域苗木支援基金として金10,000,000wonの寄託を受けたことに感謝の意を込め、本証書を授与します。

2006年4月21日  
民族和解協力汎国民協議会  
常任議長 丁世鉉



今回の苗木支援において、南側民和協より、寄付証書をいただきました。内容は左記の通りとなります。

写真左:  
南側民和協 丁世鉉 常任議長  
(前統一部長官)

写真右:  
三千里鐵道 韓基徳 事務局長

**編集後記**

訪朝、ホームページリニューアル、ニュースレター発行、2005年度総会、6.15記念祝典、県庁書類提出、法務局書類提出。ホームページ更新...

僕の好きな言葉。「若いうちの苦勞は買ってでもしろ、もう若くないか...^^; (ゆなっば)



三千里鐵道のホームページがリニューアル!

今回、三千里鐵道のホームページを大幅にリニューアルしました。出来る限りの情報公開と、情報提供を継続的にお知らせしていきたいと思っています。

また、韓国語のページも随時増やしていく予定です! 皆様にとって有意義なホームページになるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします!

三千里鐵道ホームページは <http://www.sanzenri.gr.jp/>



# 『東北アジアの平和実現への道筋』

NPO 法人三千里鐵道 開城苗木支援及び植樹事業報告  
磯貝治良氏(副理事長)中部ペンクラブ文学賞受賞 記念挨拶

記念講演 姜尚中氏 (東京大学教授 政治学)

## 4月21日、三千里鐵道は、開城で植樹をしてきました

南側民和協は、北側民和協の要請を受けて、開城市において「苗木支援及び南北共同植樹事業」を行ったが、南側民和協の要請を受けた三千里鐵道も、理事長以下3名が参加した。

参加者はバス3台に分乗し、陸路南側『出入管理事務所』において『出境』手続をとり、軍事境界線を越えて、開城入りした。

今回の苗木支援は、五葉松、松、けやき合せて 18 万本であった。



これに先立ち19日、三千里鐵道は、南側民和協に、苗木購入代金1千万ウォンを伝達した。

## 本法人副理事長の磯貝治良氏が、本年度の中部ペンクラブ文学賞を受賞しました

受賞作は『弾のゆくえ』。在日朝鮮人の生を描くことをライフワークにしてきた氏は、また、在日朝鮮人文学評論の第一人者でもある。

## ますます緊張が高まる東北アジア情勢

盧武鉉大統領は25日、日本による東海(日本海)排他的經濟水域(EEZ)海洋調査推進に関連した韓日関係特別談話で、「独島問題を日本の歴史教科書歪曲、靖国神社参拝問題とともに、韓日両国の過去の清算と歴史認識、自

1950年8月 熊本県に生まれる  
早稲田大学政治経済学部 卒業  
同大学院政治学研究科博士課程修了  
ドイツエアランゲン大学 留学  
国際基督教大学準教授  
現在 東京大学情報学環教授  
主な著書  
東北アジア共同の家を目指して  
在日 - ふたつの『祖国』への想い



主独立の歴史と主権守護のレベルで正面から扱っていく」と明らかにした。

これに対し、麻生外相は「地方選挙に有利に活用しようとする国内用談話ではないか」との談話を発表、こき下ろし、韓日関係は極度の緊張を示している。

一方、朝日関係においては、朝鮮側が解決済みとする拉致事件を、日本政府側は未解決とし、国交正常化の前提条件とするなど、膠着状態に陥っている。

このような中で三千里鐵道は、「東北アジアの平和」をキーワードにした著作言論活動を活発にされている、姜尚中氏に、今回の講演を依頼した。

**6月11日(日) 午後3時半 開場**  
**午後4時 開演**

**名進研ホール 3階**

〒451-0045 西区名駅2-34-19 (1階 CAFÉ DE CRIE)  
JR名古屋駅下車徒歩5分 TEL: 052-582-2003

**参加費: 1,000円 (学生500円)**

**主催: NPO法人 三千里鐵道**

主催形式については、他団体との協議により、変更の可能性があります。

